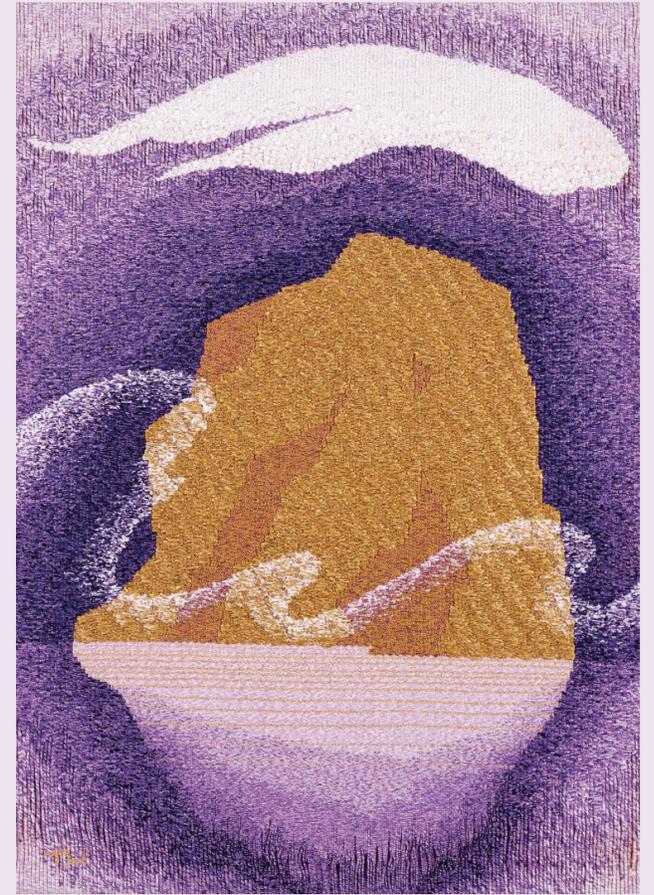


ORANGE

Vol.34



潮隆雄《夕凧-A》1997(平成9年)

田辺市立美術館蔵

作品介绍 潮隆雄《夕凧-A》

潮隆雄（1938～2021）は60年間にわたって、タピスリーの制作を自らの表現の手段とし、織の技を練達させながら制作を重ねた。当初は抽象形態の構成による内省的、抒情的な作品によって、タピスリー作家としての地歩を築いたが、やがて自然との交わりの中で得たモチーフを主題にした、スケールの大きな作品の制作へと移ってゆく。この変化とともに、織の技法も独自のものを含めたより高度なものへと磨かれていった。《夕凧-A》に表される鳥影は、潮の好んだモチーフの一つだが、実際の鳥を写したのではなく、郷愁を帯びた心象の景だと聞いている。水面と空気は、綴織と巻織を駆使した色彩の階調で繊細に表され、それに取り囲まれる島と雲の力強く引締った造形は、独自の浮織、輪奈織による質感の効果を伴って、鮮やかな印象を与える。潮は洗練された技法と構想をもって織特有の表現を活かしきり、このタピスリーに、夕凧の一刻が生み出す情感を満たすことに成功した。

作者の潮隆雄さんは今年1月15日に逝去されました。ここに謹んで哀悼の念を表します。

(学芸員 三谷 渉)

この他にも、叙情的で物語性の強い内容を、緻密な木口木版で表現する柄澤齊（からさわ・ひとし/1950～）の肖像シリーズや、北欧の画家エドワルド・ムンク（1883～1944）の透明感のある彩色を施した木版画、ポップアートを代表する作家ロイ・リキテンスタイン（1923～1997）のリトグラフ（石版画）など、多彩な版画作品を展観しました。

急な予定変更による展覧会の開催にも関わらず、ご理解をいただき、貴重な作品をご出品くださったご所蔵者の方々、ご来館ご鑑賞いただいた方々に、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

(学芸員 知野 季里穂)



前川千帆による当地の温泉を描いた木版画をまとめて紹介しました

REPORT 「版画の表現」

昨年の10月から11月にかけて、熊野古道なかへち美術館を会場に小企画展「版画の表現」を開催しました。当初の計画ではこの時期に特別展「土屋仁応 森の神話」を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響でやむなく延期することとなり、その代替となったものです。

ちょうど昨年、2020年が和歌山にゆかりのある版画家、浜口陽三（はまぐち・ようそう/1909～2000）の没後20年、前川千帆（まえかわ・せんぱん/1888～1960）の没後60年にあたる年であったこともあり、この機会にその作品を集めて紹介し、木版、銅版、石版などの多彩な手法が洗練されて展開した、国内外の近現代の作家による版画の世界をお伝えする内容とすることを考えました。

現在の和歌山県有田郡広川町に生まれた浜口陽三は、廃れかけていたメゾチント（銅版画の技法の一つ）による表現を追求し、独自に4色の版を重ねるカラーメゾチントを開発して、その作品が国際的に高く評価された版画家です。展覧会では、1950年代後半から1970年代後半までの充実した制作時期の作品15点を展示し、静謐で深い情感を湛える浜口の芸術をお伝えするコーナーを設けました。

前川千帆は日本各地を旅して、その風景を作品にした木版画家で、和歌山県にも度々来ています。展覧会では、代表作の一つである、全国の温泉を旅してその風景をまとめた『版画浴泉譜』シリーズから、戦後に出版された『続々版画浴泉譜』に収録されている当地の温泉を描いた作品を紹介しました。湯の峰、川湯、白浜、椿などの温泉地の半世紀前の情景が、味のある木版画で表されています。

田辺市立美術館へのきもち②4

たくさんの花が咲く公園を前にたたずむ建物。中村彝が描いた《帽子を被る少女》。佐伯祐三の《扉》。田辺市立美術館について、私がまず思い浮かべるのはこの三つである。

手入れされた花壇を見ながら美術館に入り、受付を経て展示室へ。展示室は作品保護のため照度を抑えねばならないが、明るい太陽光が降り注ぐ公園から、少しずつ暗さに慣れ、展示室の壁に向かって立つ頃には、そこに掛けられた作品の世界に集中する。

中村彝の少女像は、自らの死を予感して描いた油彩画で知られる彼の画業のなかでは珍しい、屈託のない愛らしい小品だ。少女はちょっぴり気が強そうで、まっすぐなまなざしをこちらに向けている。この作品を見ると、短い時間であれ、彼が幸せに画面に向かうことができた瞬間があったのだと、どこか安心するような気持ちになる。

《扉》は佐伯祐三がその短い生涯の最晩年に描き、「最高に自信のある作品」と述べた1点。ただ扉だけを正面から描いた油彩画だが、超越的な迫力がある。彼の絵は素早く走るような線が特徴的だが、実際にある扉と絵を見比べると、佐伯はそこにないものは何一つ描いていないことに驚嘆する。余計な線など一本も描かれていないのである。形を捉え

る眼と感性、それに即応し筆を動かす手。鬼気迫る様相でパリの街角に立つ佐伯の姿が浮かんでくる。

田辺市立美術館にはこうした珠玉と言うべき作品がある。このような作品を中心に、作品や作家、時代を深掘りした展覧会の実現を続けてほしい。

一方、熊野古道なかへち美術館は、2003年に小林孝亘の個展が開催されていた際、展示室で東京からやってきていた旧知の学芸員や作家たちと出くわし、久しぶりの再会を喜んだことがある。そこでしか見ることのできない展覧会には、どんなに遠くからでも人はやってくる。私にとって、熊野古道なかへち美術館はそうしたことを教えてくれる場である。

(和歌山県立近代美術館 学芸課長 井上 芳子) 県立近代美術館エントランスにて



田辺市立美術館 NEWS ORANGE Vol.34

編集・発行：田辺市立美術館
発行年月日：令和3年4月1日

田辺市立美術館

〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770 FAX.0739-24-3771
http://www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/

田辺市立美術館分館 熊野古道なかへち美術館

〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露891
TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393
http://www.city.tanabe.lg.jp/nakahechibijutsukan/

編集後記

田辺市立美術館が開館25周年を迎える年最初のORANGEをお読みいただきありがとうございます。記念のコレクション展と特別展も予定しています。折り込みの展覧会案内とスケジュールをご覧ください。切り取って、折りたたんでお手元においていただければ幸いです。(F.O.)



潮隆雄《夕凧-A》1997(平成9年)

1. 開館25周年記念コレクション展
I. 洋画の表現 II. 織の造形
開館25周年を記念して、コレクション中の近現代の秀作を4部構成で紹介いたします。第1部は洋画、第II部は織の作品を展示します。
2. 特別展 生誕120年 高橋周策—モダンとロマン—
連水御舟に傾倒して日本美術院で頭角を現し、戦後継ぎなく々に「蘭語美劇」（現在の劇団笑）の組織に参画して、新しい時代の日本画革新の追求へと向かった、高橋周策（1900—1964）の芸術を回顧します。
3. 開館25周年記念 特別展 紀の国わかやま文化祭2021 特別連携事業 きのくにの三個人
越前守の文人画コレクションを中心として
I 根田南雄 II 梨山玉洲 III 野呂介石
江戸時代の紀州から輩出した三人の優れた文人画家、根田南雄（1676—1751）、梨山玉洲（1746—1799）、野呂介石（1747—1828）の作品を展覧し、きのくにに培われた豊かな文化を広めます。
4. 開館25周年記念コレクション展
III. 日本画の革新 IV. 水彩画の展開
開館25周年を記念する、コレクション展の第III部と第IV部、近代から現代にかけての日本画と水彩画の秀作を展示します。

1. 小企画展 絵木理珠
「見ること」を問い続ける現代の代表的な写真家、絵木理珠（1963—）の作品を特集します。
2. 特別展 現代の織 V 中野恵美子
理珠の優れた織の造形を紹介する展覧会シリーズの5回目。世の染織史や技法の研究と並行して、独創的な作品を発表し続けている中野恵美子（1941—）の新作を展覧します。
3. 特別展 紀の国わかやま文化祭2021 特別連携事業 土屋仁応 森の神話
仏像彫刻の古拙技法を応用し、動物や幻想をモチーフにした神秘的な彫刻を制作し続けている、土屋仁応（1977—）の近年の作品による展覧会を開催します。



現代の織 V 中野恵美子

《運なり カンボジアンタナー》2008(平成20年)

個人蔵

開館25周年記念のコレクション展

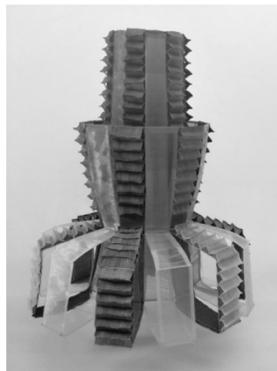
今年、田辺市立美術館は1996(平成8)年11月の開館から25周年を迎えます。これを記念する特別展として、当館が活動の主軸の一つにしている文人画をテーマとした「きのくにの三画人」を秋から開催します。これは、近世日本の文人画の世界を、紀州が輩出した三人の画家を中心に据えて紹介するもので、開館当初からの調査、研究の蓄積をまとめてお示しする機会をつくることを意図しています。

当館のもう一つの活動の軸である日本の近代美術については、これまで収集してきた作品を四つの分野に分けてお伝えするコレクション展を開催して、開館25周年の記念にしたいと考えています。第Ⅰ部と第Ⅱ部を4月から6月にかけて行い、第Ⅲ部と第Ⅳ部を来年2月から3月にかけて開く予定です。

本年度のスタートとなる、この「開館25周年記念コレクション展」第Ⅰ部では、明治期以降に本格的に流入してきた西洋の絵画手法を、日本人画家が受容して自らの表現として描いた「洋画」について、収集している作品を通してうかがえます。新たな日本絵画の領域を開



川口軌外(Composition) 1957(昭和32)年



久保田繁雄(Shape of Red I) 2009(平成21)年

新収蔵作品について

昨年度は、1点の作品を購入し、5点の作品のご寄贈をいただきました。

購入した作品は、織作家、久保田繁雄(1947～)の《Shape of Red I》(2009年/180×180×h.230cm/立体)で、同じく久保田の作品、《織の回廊Ⅱ》(2000年/210×445cm/タピスリー)をご恵贈いただきました。2点とも、2017(平成29)年に開催した「現代の織Ⅱ 久保田繁雄」に出品していただいた作品で、いずれも近年の制作を代表するものです。これまでも久保田の作品は収蔵してきましたが、今回の追加によって、その芸術をより深く伝えてゆくことのできるコレクションが形成されたものと考えています。《Shape of Red I》は、サイザル麻と化学繊維の対照的な質感、発色が幾何学的な立体造形のうちに統合されるユニークな作品です(上欄の「開館25周年記念コレクション展」に図版掲載)。《織の回廊Ⅱ》は、久保田が初めて金糸、リネン麻糸を用いた作品で、透かし織と前後二重の構造によって、イタリアで接した建築と光の印象が鮮やかに造形されています。

この他にも水彩画家、中西利雄(1900～1948)の作品、《紅葉》(1938年/50.3×63.2cm/額装 ※右の図版)、原勝四郎(1886～1964)の油彩画、《静物》(1938年頃/12.5×15.9cm/額装)、《静物》(1955年頃/22.0×27.0cm/額装)、《バラ》(1955年頃/27.0×21.9cm/額装)をご寄贈いただきました。

中西の作品も、2004(平成16)年に開催した「中西利雄展」に出品していただいたもので、当時所有されていた方のご遺族から、

拓しながら自己の芸術を確立し、近代美術の主潮の一つを形成した洋画家たちの優れた作品の数々が当館にコレクションされていることを、展示によって改めて明示したいと思っています。

また第Ⅱ部では、近年に形成された、当館の特徴的なコレクションの一分野である、現代の織作家たちの作品を特集します。当館では2017(平成29)年から、高度な織の技術によって独創的な制作を行い、現代の美術表現を切り開いている作家を紹介する展覧会シリーズ、「現代の織」を開催してきています。展覧会の開催とともに、特に秀でた作品、重要な位置を占める作品については、積極的に収蔵を進め、織作品は現在30点を超えるまでになりました。これまでに「現代の織」で取り上げた4人の作家の作品を一堂に展覧して、織による造形の魅力と可能性を探りたいと思います。

開館25周年を記念した特別展、コレクション展ともに、これまでの調査と研究、作品の収集と保存の蓄積を基礎として、それらが生み出した成果を、展覧会を通してお伝えし、確認して、今後のさらなる進展を目指そうとするものです。昨年、新型コロナウイルス感染症による不測の事態が生じていますが、渦中であって一層、こうした美術館の基本的な活動の重要性があらわになってきているように思います。

(学芸員 三谷 渉)

INFORMATION

開館25周年記念コレクション展

I.洋画の表現

II.織の造形

会場/田辺市立美術館

観覧料/260円

※学生及び18歳未満の方は無料

会期/2021年4月24日(土)～6月27日(日)

開館時間/午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日/毎週月曜日(ただし5月3日は開館)

4月30日(金)・5月6日(木)

高橋周桑のモダンとロマン

高橋周桑(本名は千恵松)は、1900(明治33)年に愛媛県周桑郡庄内村(現在の西条市)に生まれた日本画家です。けて早くから画家を志望していたわけではなく、幼少期に一家で九州に移住し、炭鉱や農園での労働に従事するかたわらで接した、速水御舟(1894～1935)の作品評と作品図版に感銘を受けたことが、絵を描き始めるきっかけでした。

芸術家への憧れを募らせた高橋は、御舟に弟子入りを志願する手紙を送り続け、20歳のときに上京して師事することを許されます。間もなく生活をともにして修業を重ねるようになり、生地にちなんだ号「周桑」を御舟からもらいます。入門から7年経った1928(昭和3)年、日本美術院展(院展)に初入選し、2年後には日本美術院賞を受けて院友となり、順調に画家としての歩みを進めました。やがて、銀座のショーウィンドウや競走馬を作品のモチーフにするなど、モダンな感覚を日本画に取り入れてゆくことを志向して頭角を現します。

1935(昭和10)年に御舟が40歳の若さで没してからは他に師事することなく、独自の道をゆき、御舟の遺品の整理にも尽力しました。

戦後再開した院展で、周桑は無鑑査となりますが、1948(昭和23)年に山本丘人(1900～1986)、上村松篁(1902～2001)、福田豊四郎(1904～1970)ら、主に官展で活躍していた同志の画

INFORMATION

生誕120年 高橋周桑—モダンとロマン—

会場/田辺市立美術館

観覧料/600円

※学生及び18歳未満の方は無料

会期/2021年7月17日(土)～9月12日(日)

開館時間/午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日/毎週月曜日(ただし8月9日は開館)

8月10日(火)

追悼：タピスリー作家潮隆雄



1998(平成10)年3月8日、「Tapestry 潮隆雄展」の開催を記念した公開対談の後、展示室で再び作品について語り合う、潮隆雄さん(左)と上山春平名誉館長(当時)。二人とも鬼籍に入られた。

改修工事が終わりました

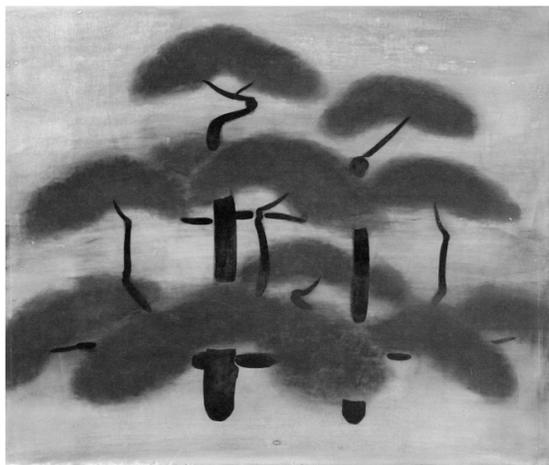
田辺市立美術館(本館)は、昨年9月末からおよそ半年間の休館期間をいただいて設備の改修を行ってきました。主となった、展示室1・2の照明設備の改修、防火・防犯扉の修繕も無事に完了し、良好で安全な展示環境を整えることが出来ました。この環境を活かして、開館25周年からの活動を一層充実したものにしていきたいと思います。皆様のお越しをお待ちしています。

家たちと「創造美術」を旗揚げして日本美術院を離脱し、新しい時代の日本画創造を目指して自身の表現を展開してゆきました。ただし周桑は、絵具を厚く塗りこめて面的な表現を追求してゆく画家が多かった中であっても、淡い色彩と線の妙味を保ち続けました。晩年の周桑は、「どぎつい原色を塗りたくった絵が多い今日、夢みたいな絵があってもいいじゃないか」と、その胸の内を語っています。

近代的な造形と情感の表出とを結びつけることに腐心し、舞台衣装や舞台美術を手掛けるなど、制作の幅も広がっていましたが、志半ばにして病に倒れ、1964(昭和39)年、周桑は63年の生涯を閉じました。

昨年、生誕120年を迎えた高橋周桑の画業を振り返る展覧会を、今夏、当館と浜松市秋野不矩美術館との共同で開催します。

(学芸員 三谷 渉)



《松》1954(昭和29)年 愛媛県美術館蔵

2021年度

2021年度	2022年
田辺市立美術館	熊野古道なかへち美術館
4月	4月
5月	5月
6月	6月
7月	7月
8月	8月
9月	9月
10月	10月
11月	11月
12月	12月
1月	1月
2月	2月
3月	3月

①開館25周年記念コレクション展 I.洋画の表現 II.織の造形	③開館25周年記念特別展 紀の国わかやま文化祭2021 きのくにの三画人 藤村兄弟の文人画コレクションを中心に	④開館25周年記念 コレクション展 Ⅲ.日本画の革新 Ⅳ.水彩画の展開
展示替のため休館	展示替のため休館	展示替のため休館
1.祇園南海 10/2(土) ～11/7(日)	II.森山玉洲 11/3(土) ～12/19(日)	Ⅲ.野呂介石 12/25(土) ～2/6(日)
展示替のため休館	展示替のため休館	展示替のため休館
②特別展 生誕120年 高橋周桑—モダンとロマン—	③特別展 紀の国わかやま文化祭2021 特別連携事業 土屋仁応 森の神話	■くまびで作ろう①を予定しています。 講師のアーティストと参加者が一緒に 作品をつくるワークショップです。作った 作品は展示して公開します。
7/17(土)～9/12(日)	10/2(土)～11/28(日)	2/19(土)～3/27(日)
展示替のため休館	展示替のため休館	展示替のため休館
①小企画展 鈴木理策	②特別展 現代の織Ⅴ 中野恵美子	展示替のため休館
4/24(土)～6/27(日)	7/17(土)～9/12(日)	展示替のため休館
展示替のため休館	展示替のため休館	展示替のため休館